

NEXCO東日本レポート 2025 MINI

NEXCO東日本レポート 2025 MINI

発行：東日本高速道路株式会社

〒100-8979 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング（総合受付14階）
<https://www.e-nexco.co.jp/>



本報告書は、環境に配慮し、用紙にFSC®認証紙を、印刷インキに揮発性有機化合物を含まないNON-VOCインキを使用し、印刷はアルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷」で行っています。また、読みやすさに配慮された「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。

2025年9月 発行

あなたに、ベスト・ウェイ。

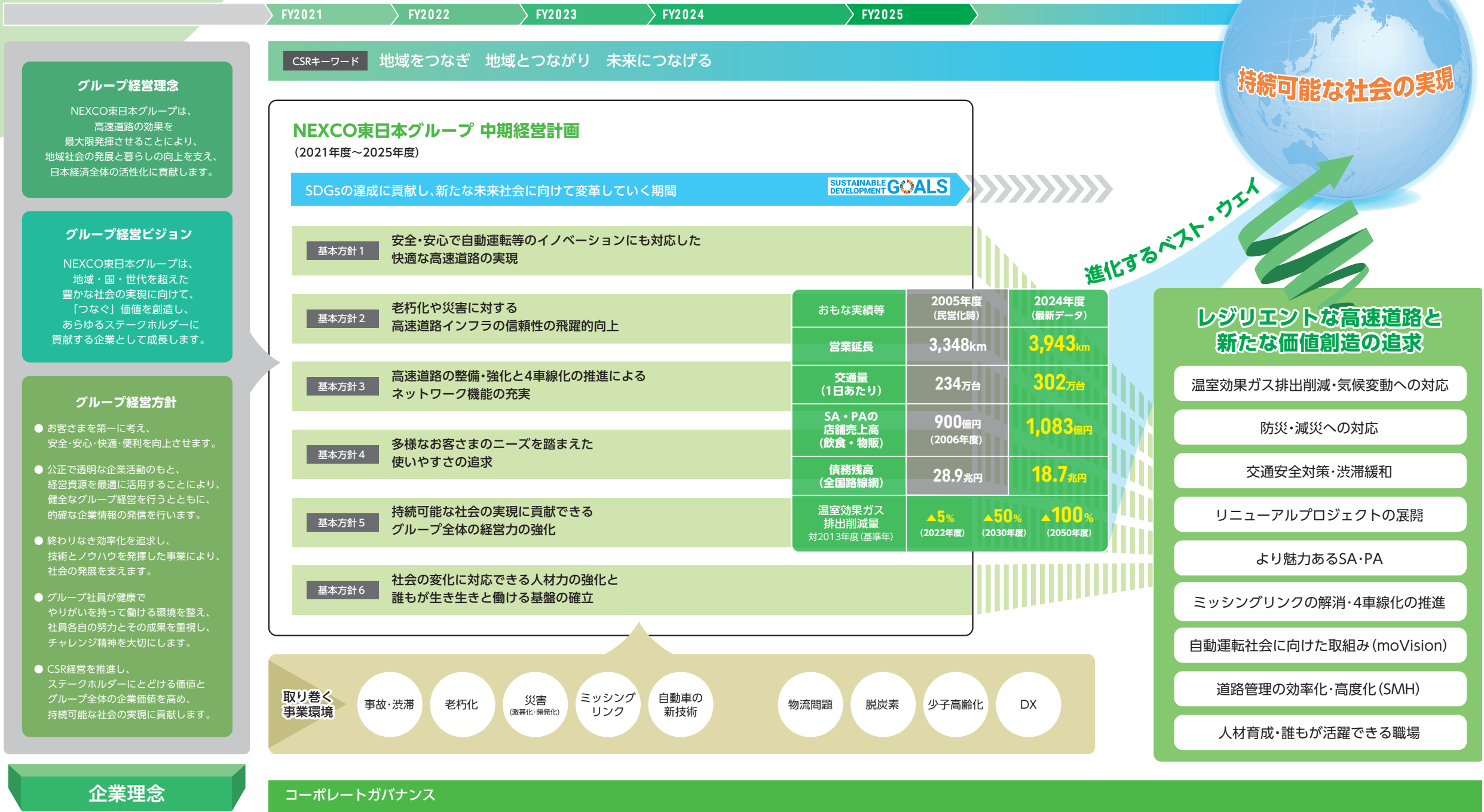


価値創造ストーリー

持続可能な社会の実現へ貢献し続けるためのストーリー

当社グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献することを経営の理念とし、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向け、「つなぐ」価値を創造することで、あらゆるステークホルダーに貢献する企業として成長していくことを目指しています。

「中期経営計画(2021年度～2025年度)」は、「SDGsの達成に貢献し、新たな未来社会に向けて変革していく期間」と位置づけ、さまざまな取組みを推進しています。そして、「地域をつなぎ 地域とつながり 未来につなげる」をCSRキーワードに込め、未来につなげるサステナブルなベスト・ウェイとして進化していくことで、持続可能な社会の実現に貢献します。

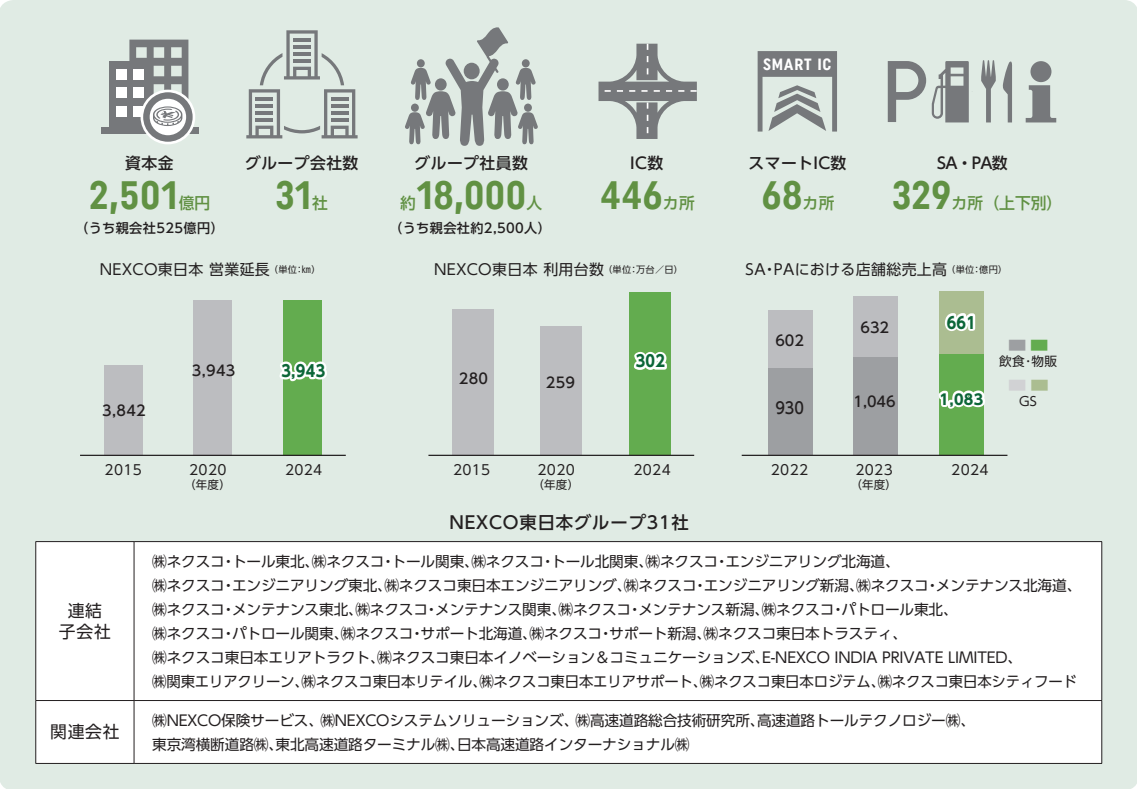


事業概要

高速道路ネットワークを着実に整備し、安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお客さまに届けるための事業（道路事業、収益事業）を展開しています。



経営資源の状況（2025年3月31日現在）



管理事業

● 交通管理 ～道路交通を見守り、お客さまの安全を守る～

【交通巡回】

24時間365日、高速道路を巡回し、道路・交通などに異常がないかを確認しています。異常事象(事故・故障車・落下物など)発生時には、現場に急行し、警察・消防機関などと連携し、車線規制や事象の対応に当たります。

【法令違反車両の指導取締り】

法令で決められた車両の長さ・重量などの最高限度（一般的制限値）を超えた車両や長大トンネルなどを通行してはいけない車両（禁止されている危険物を積載した車両）の走行を防ぐための指導取締りを行っています。

【交通管制】

「道路管制センター(交通管理業務の司令塔で管内4カ所に設置)」において、高速道路の状況を把握し、異常事象への対応やお客さまへの情報提供を行っています。また、トンネル・非常用設備などの常時監視を行い、日夜、お客さまの安全・安心を支えています。

● 保全点検・維持修繕 ～良好な状態を整え、快適な走行環境を確保～

路面や道路構造物・附属物の点検や清掃、高速道路周辺の草刈りなどを実施するとともに、計画的な補修工事による高速道路の維持に努めています。また、ICTやロボティクス、AIなどの最新技術を積極的に活用し、道路管理の効率化・高度化を目指す取組みとして、SMH（スマートメンテナンスハイウェイ）プロジェクトを推進しています。

● 料金収受 ～高度化・効率化を推進～

お客さまの安全走行を確保し、料金所の適切な車線運用に取り組むとともに、快適にご利用いただくために接客マナーの向上に努めています。また、生産年齢人口の減少を見据え、料金精算機の導入や遠隔対応に取り組むとともに、ETC専用料金所を運用するなどキャッシュレス化やタッチレス化を進めています。



交通巡回(落下物排除作業の例)



関東支社道路管制センター



植栽作業(草刈り作業の例)



遠隔地から料金収受を行うオペレーションセンター

高速道路の維持管理に関するデータ



建設事業

● ミッシングリンク(道路が途中で切れている未開通区間)の解消

首都圏では、圏央道 境古河IC～つくば中央IC間(2017年)や東京外環道 三郷南IC～高谷JCT間(2018年)の開通により、関越道から東関東道まで複数のルートでつながり、利便性が向上しました。

現在も圏央道や東京外環道などの整備を進めています。ミッシングリンクの解消は、移動時間の短縮、地域経済の活性化や災害発生時の緊急輸送路としての役割が期待されます。

● 暫定2車線区間の4車線化

4車線化することで、渋滞の解消・緩和、反対車線への飛び出しなど重大事故の防止、維持修繕工事や事故発生時などの通行止めの減少が見込まれます。また、時間信頼性の確保、災害・大雪時の交通機能確保にもつながることから、計画的に4車線化を進め、安全・安心のための機能向上に取り組んでいます。

● スマートICの設置

既存の高速道路を有効に活用し、地域生活の充実や地域経済の活性化を推進するため、通行をETC車に限定した低コストで導入できるスマートICの整備を各地で進めています。

【スマートICの設置】



圏央道 つくば西スマートIC

【ミッシングリンクの解消】



横浜環状南線(圏央道) 釜利谷JCT～戸塚IC 庄戸トンネル坑内



圏央道 大栄JCT～松尾横芝IC 大栄JCT

【暫定2車線区間の4車線化】



磐越道 三川IC～安田IC 宝珠山トンネル付近



道東道 トナムIC～十勝清水IC
ペンケオタソイ川橋～広内トンネル付近

サービスエリア事業

● 商業施設の充実 ～より便利で快適を追求～

【「華づくり」と「礎づくり」】

個性的なサービスを目指す「華づくり」と、一般的な質の向上を目指す「礎づくり」を追求し、魅力的なSA・PAへ、リニューアルを進めています。

【快適をサポート】

小さなお子さまをお連れの方やお体の不自由な方も安心して利用できる施設(ベビーケアルーム、多機能トイレなど)やお客さまニーズに応える施設(シャワールーム、パウダーコーナーなど)を整備し、快適な休憩を支えています。

【ウォークインゲート(一般道側出入口)の設置】

地域の皆さまにも、SA・PAの商業施設をご利用いただけるよう、「ウォークインゲート(一般道側との徒歩による出入口)」と一般道側の駐車場を順次整備しています。

SA・PAに関するデータ

バリアフリー
対応済エリア数

全体の
約 **60%**

子ども用トイレ
設置率

約 **80%**

シャワールーム
設置数

10カ所

心のバリアフリー
認定SA・PA数

35カ所

ウォークインゲート
設置数

115カ所

SA・PA
一般道側駐車場
設置数

87カ所

華づくり



7カ所



20カ所

礎づくり



111カ所



48カ所

上記のほか、自動販売機設置エリアを128カ所、トイレのみのエリアを5カ所設置



ウォークインゲート(東北道 蓮田SA上り線)

国内高速道路初 「無人販売店舗」がオープン

担い手不足の解消へ、安定的に商業施設を運営

担い手不足という社会的な課題により、SA・PAでは、スタッフを配置した従来どおりの営業の継続が将来的に難しくなることが考えられます。こ

のような状況をふまえ、2024年11月に上信越道 東部湯の丸SA(下り線)、2025年3月に東北道 蓮田SA(上り線)で無人販売店舗をオープンしました。これらは(株)TOUCH TO GOの無人決済システムと店舗DXの技術を活用しており、新たな店舗運営として取り組んでいます。



無人販売店舗「東部湯の丸GO」(上信越道 東部湯の丸SA下り線)

TOPICS

社員が語る「ICT施工」「i-Construction」の推進 ～建設事業の生産性向上へ～

3D設計データやコンクリートの遠隔吹付を用いて「トンネル内作業の完全自動」を目指すなど、ICT(情報通信技術)を活用し、効率性・安全性・品質が高い工事を実現するための「i-Construction」に取り組んでいます。



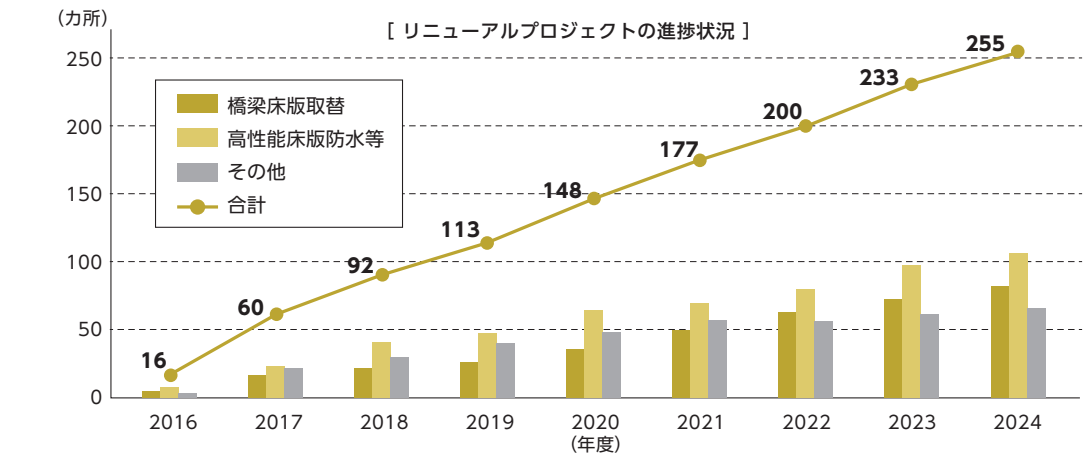
「i-Constructionの取組み(マイナビニュース)」の詳細はこちら
<https://news.mynavi.jp/kikaku/e-nexco-sdgs-4/>



新潟工事事務所 高鍋 陽祥

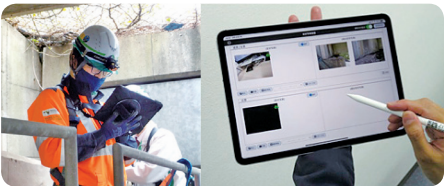
高速道路リニューアルプロジェクト

2050年には、当社管内の7割を超える道路が開通から50年を超える状態になります。橋やトンネルなどの構造物では、著しい損傷を確認した箇所もあります。点検技術の高度化で、新たに確認した劣化箇所への対応を含め、安全・安心を次の世代へつなぎます。また、近年では、交通量の多い区間でリニューアル工事を進める事例が増えてきました。新技術などの活用を含め、柔軟な交通運用を図りながら、渋滞の発生など、お客さまへの影響を最小限にとどめる工事を進めています。



SMHプロジェクトの推進 ～管理事業の生産性向上～

SMH(Smart Maintenance Highway:スマートメンテナンスハイウェイ)は、ICTやロボティクス、AIなど最新技術を活用し、高速道路のアセットマネジメントにおける生産性を向上させるプロジェクトです。これにより業務の効率化・高度化を図り、各業務における意思決定プロセスの標準化と生産性向上を図ります。



点検支援アプリの利用イメージ

冬期における除雪作業の省力化・効率化

当社グループは、降雪地域を広く抱えているのも特徴です。生産年齢人口が減少していく中で、新たな作業員の確保が課題です。加えて、除雪車の運転・操作は、一定程度の運転技術や経験を必要としますが、将来に向けて、経験が浅くても安定して除雪車のオペレーションができるよう技術開発を進めています。

その中の一つとして、低速で作業するロータリ除雪車との接触・衝突事故を防ぐために注意喚起する標識車が、ロータリ除雪車に自動追従する技術開発を、いすゞ自動車㈱と共同で行っています。2021年度より車両開発に着手し、2024年度夏期・冬期に高速道路規制内で走行試験を行いました。今後はさらに技術の精度を高めることで、作業の省力化・効率化を目指し、運用に向けた検討を進めます。

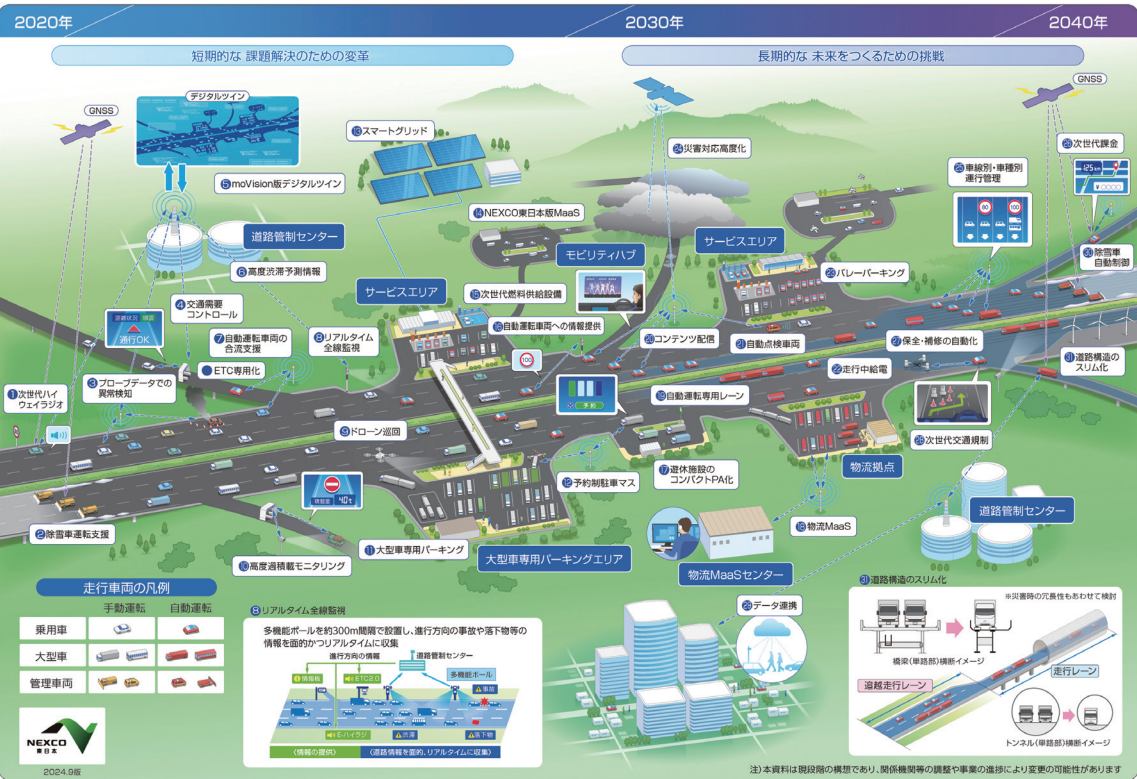


moVisionの推進による未来社会の実現

最先端技術を活用し、未来の社会構造・経済活動を持続的にけん引する新たなモビリティサービスを提供するため、2021年4月、「自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿(構想)」を取りまとめ、「31項目の重点プロジェクト(愛称:moVision(モビジョン))」を設定しました。重点プロジェクトの具体化に向けて検討・整備を進め、自動運転時代における新たな価値を創造し、「未来社会」を実現します。



〔将来の目指す姿 <重点プロジェクト>のイメージ〕



国際社会とともに未来へ 日本の高速道路技術の世界拡大

当社グループは、長年培ってきた技術とノウハウを活用し、諸外国の発展に貢献しています。特に経済成長著しいインドにおいて、現地法人「ENI(E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED)」を設立しています。ENIでは、E-NEXCO Eye(レーザーやカメラを搭載した車両)の走行データを収集し、効率的な補修計画に役立てています。また、インド最大の有料道路運営会社「Cube Highways(Cube社)」と、休憩施設を含む道路維持管理全般に関する技術アドバイザリー契約を締結し、当社グループの経験を活かした事業を展開しています。



路面性状測定車両「E-NEXCO Eye」

ENI社員の声

ENI社員が語る「インドでの道路維持管理」

私は、E-NEXCO Eyeによる路面性状測定業務やデータ解析を行っています。インドでは振動や埃などによりデータや機器に不具合が生じることもありますが、一歩ずつ改善につなげられており、日々の業務にやりがいを感じています。今後も日本の道路技術を活用したインドの道路維持管理の高度化に貢献していきたいです。

Mr. Naveenkumar J (Manager)



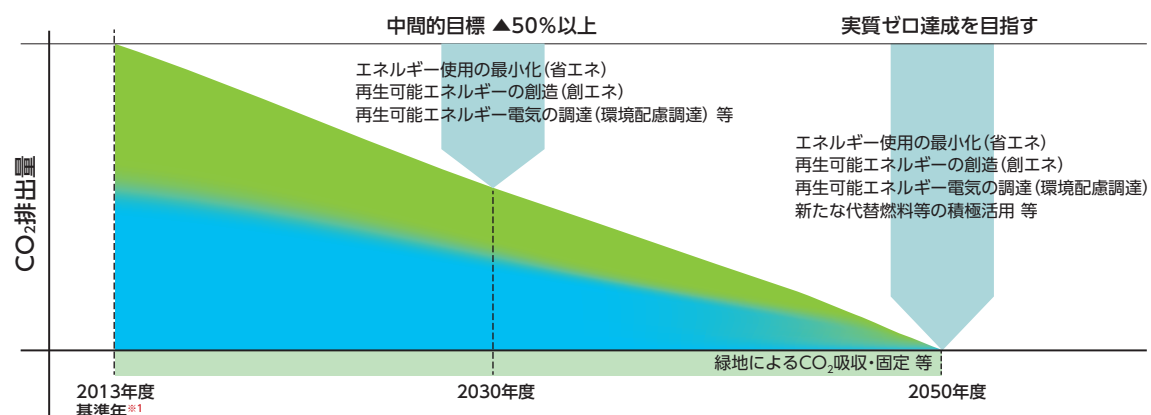
カーボンニュートラルの推進

● NEXCO東日本グループ カーボンニュートラル推進戦略

高速道路を通じて社会を支える使命を持続的に果たすため、「NEXCO東日本グループ カーボンニュートラル推進戦略」を策定し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいます。

自社の事業活動による排出 Scope 1 / Scope 2

自社の活動によるCO₂排出量について、削減策を計画・推進し、2050年度のCO₂実質排出量ゼロの達成を目指します。また、中間的目標として2030年度においてCO₂排出量を2013年度比50%以上の削減を目指します。



自社の事業活動にともなう間接的な排出 Scope 3

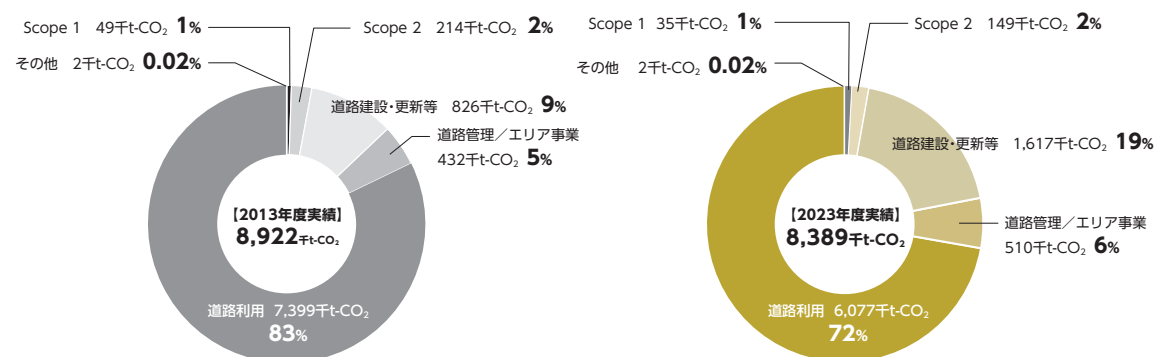
政府が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現と2030年度における目標^{※2}の達成を目指し、高速道路を走行する自動車や高速道路の建設・管理のために調達する工事などによるCO₂排出量削減に寄与する施策を推進します。

※1 本戦略では地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定)に準拠して、2013年度の排出量を基準に削減率をモニタリングしていきます。

※2 地球温暖化対策計画における温室効果ガス排出量・吸収量の目標。2030年度の目標・目安として2013年度比▲46%（さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。）とされ、区分ごとの目標・目安として、産業部門で▲38%、業務その他部門で▲51%、運輸部門で▲35%などが示されています。

● サプライチェーン排出量の状況（基準年と2023年度との対比）

当社グループの事業活動による2023年度のサプライチェーン排出量(実績)は、約839万t-CO₂となっており、基準年となる2013年度のサプライチェーン排出量と比較すると、約6%削減しています。



※サプライチェーン排出量について……Scope 1(燃料の使用)、Scope 2(電気の使用)、Scope 3(高速道路の建設・管理のために調達する工事や高速道路を走行する自動車からの排出など)を対象としています。

一人ひとりの成長をサポートし、未来の価値創造を担う人材育成

● 人材育成方針(2023年度策定)

高速道路を末永く維持し、進化させ続けていくためには、現場力の源泉である人材を確保し、育成していくことが重要です。当社が求める人材像・能力・スキルやキャリアパスを明示し、人材育成手法、ジョブローテーションとライフステージを両立する仕組みなどを盛り込んだ人材育成方針を策定し、社員一人ひとりがその能力やスキルを最大限に発揮できるよう、人材育成を強化しています。

● 女性社員比率の向上

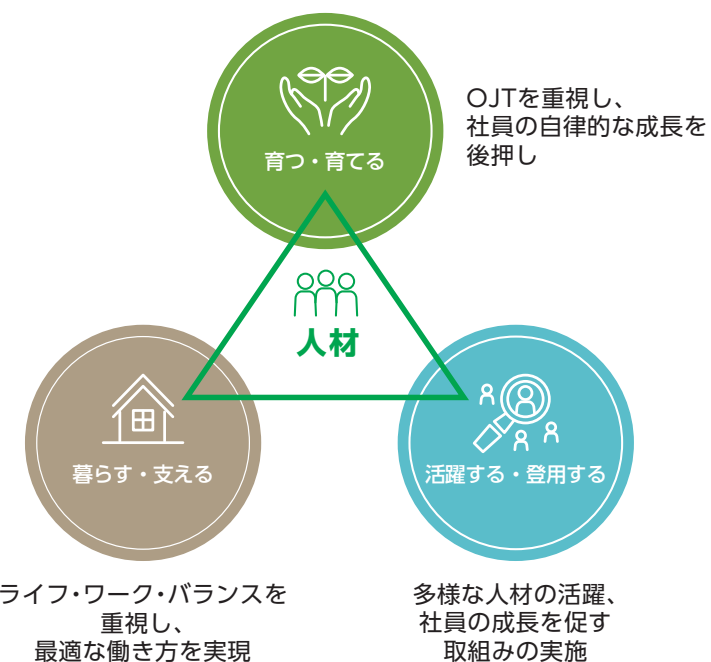
女性の新卒採用比率向上や女性社員の働きやすい環境づくりのため、採用担当への女性社員配置、当社Webサイトやパンフレットでの女性社員紹介や、座談会・フォーラム開催などの取り組みを行っています。また、柔軟な働き方に対応した各種制度の導入など、女性の活躍を支える仕組みを推進しています。

● 子育て支援

男性社員の育児休業取得率の向上(女性社員の取得率は100%)に取り組み、性別に関係なく、育児中も社員一人ひとりのライフスタイルに応じた活躍ができる環境整備を進めています。

● シニア社員活躍の場の提供

2022年度から定年退職年齢を2年ごとに1歳ずつ引き上げ(2025年度の定年退職年齢は62歳)しており、定年退職後も65歳まで継続して働くことが可能な「再任用制度」を導入しています。あわせて、働く意欲と能力のある社員の経験やノウハウを現場で活かす「キャリアシフトチェンジ制度」も導入し、シニア社員の活躍を支えています。



TOPICS

社員が語る「未来へ続く道」をつくる

高速道路の建設や維持管理におけるやりがいなど、Webサイトを通じて、社員の声をお伝えしています。



中田 光 (仙台管理事務所)



高濱 菜摘 (千葉工事事務所)



「未来へ続く道をつくる(マイナビニュース)」はこちら
<https://news.mynavi.jp/series/e-nexco-sdgs/>